

交換留学帰国報告書

記入 | 2020 年 5 月
 所属 & 学年 | 法学部 4 年
 卒業予定 | 2021 年 3 月

留学先大学	香港大学
留学先国	中国（香港）
留学期間	約 3 ヶ月 （3 年次に留学）
留学開始 - 終了	2019 年 8 月 26 日 - 2019 年 11 月 19 日

A. 留学に至った経緯や留学準備について

① 留学する大学や国、プログラムを決めた理由を教えてください。

全学や学部の短期派遣プログラムでアジア諸国を訪問して、大陸のアジア諸国が今後ますます発展していくことを実感し、アジア地域の一員である日本が、地域内や地域間の政治関係で、どのような役割を果たすべきかを考察したいと思った。そのため、中国との一国二制度下で独自の文化を持ち、アジアを中心に多くの留学生を受けており、本科の学生も全員英語で講義を受けている香港大学に留学することにした。

② 留学を志したきっかけや経緯、動機などについて教えてください。

高校生の時に、日本の高校を休学して、1 年間、アメリカでホームステイをしながら現地の高校に留学したことがあり、その時とは異なる環境（寮生活、専門性の高い講義など）で留学を経験してみたかったから。

③ 留学前の海外渡航経験があれば教えてください。

渡航先	渡航時の学年	目的 & 期間など
中国（山東省済南）	学部 3 年	国連グローバルコンパクト日中韓ラウンドテーブル（4 日間）
オーストリア（ウィーンなど）	学部 3 年	公益財団法人友愛 OJAB 研修（11 日間）
ミャンマー（ヤンゴンなど）	学部 2 年	法学部法整備支援対象国短期留学プログラム（10 日間）
ベトナム（ハノイなど）	学部 2 年	法学部法整備支援対象国短期留学プログラム（10 日間）
ウズベキスタン（タシケントなど）	学部 1 年	法学部法整備支援対象国短期留学プログラム（11 日間）
ラオス（ヴィエンチャンなど）	学部 1 年	法学部法整備支援対象国短期留学プログラム（11 日間）
ウズベキスタン（タシケントなど）	学部 1 年	全学教養科目「シルクロードの文化」（13 日間）

④ 実際に留学準備を始めたのは応募した時期からどのぐらい前でしたか？

約 2 年半前、大学に入学した直後から、大学内外で留学に向けて様々な準備を始めた。

⑤ 海外留学室の個別相談を利用した方は相談回数や相談内容、参考になったことを教えてください（利用していない方は、利用しなかった理由や状況など）。

応募前に 3～4 回、応募後出発前に 3～4 回利用し、留学先大学の情報や現地での生活の注意点等を一緒に細かく確認してもらい、不安な点の払拭に役立った。

B. 留学前の語学対策や単位などについて

①留学前の語学対策、TOEFLなどの受験回数などについて教えてください。

名古屋大学に来る留学生のチューターを受け持ったり、NUPACE・G30の講義を履修したりし、実践的な英語を使う機会を持つように心がけていた。IELTSは1年生の10月に受験し、必要なスコアが取得できたので、その後は受験しなかった。

②単位取得、単位互換、教職履修などに関するアドバイスをお願いします。

私の学年は学期間・年間の取得可能な単位数の上限がなかったため、1・2年生に詰めて履修すれば、留学前に卒業に必要な単位数を全て取得することができた。しかし、単位数に上限がついたとしても、集中講義等をうまく利用すれば、ある程度は留学前に単位数を確保でき、4年間で卒業することも十分可能だと思う。法学部は、基本的に単位互換の制度はない。

C. 授業や勉強について

①留学先で履修した科目と科目コード（例：MKG3001 Introduction to Marketing）、時間数、形態、授業の内容、履修方法、などについて教えてください。

- ・ POLI3019 Hong Kong and the World
- ・ POLI3076 Special Topics in International Politics: Understanding the U.S.-China-Japan Relations
- ・ POLI3126 Politics of Contemporary Japan
- ・ GEOG2136 Political Geography

前期に受講した科目は以上の4つで、大学のポータルサイトから履修登録をした。講義は1回110分を計13回程度行い、レクチャー形式が主になるが、時々発言を求められたり、ディベートを行う回もあったりした。

“POLI”から科目（政治與公共行政學系）には、講義とは別に、Tutorial というディスカッション・プレゼンテーションを行うセッションもあり、1回60分を計9回行った。民主化を求める抗議活動の激化を受けて、後半の数回は実地での講義・Tutorial が中止となり、全てオンラインに切り替わったが、もともとオンラインを多用して講義等が進められているので、そこまで変化はなかった。

②授業を受けるにあたって、心掛けていたこと、どんな努力や工夫をしていましたか？

講義もTutorialも指名・挙手で発言をする機会が多いので、予習段階で準備できる場合は内容を準備し、授業中にも自分の考えを発言できるように常に意識していた。また、資料は全てWEB上にアップロードされているため、多くの学生はパソコンでメモをとっていたが、自分の手を動かして書いた方が知識を吸収しやすいと思い、ノートを使っていた。

③学習面で困ったことはありましたか？どのように解決しましたか？

課題として出される論文や書籍の量がかなり多く、律儀に全て読んでいては間に合わない。そのため、パラグラフリーディングなどで傾斜をつけて読んだり、もともと予習用に出された読み物を、講義を受けた後の復習用に転用したりして、要点を理解するようにした。

D. 大学生活について教えてください。

①現地の雰囲気や大学の校風について教えてください。

大学は香港島の西端にあるが、すぐそばまで街が広がっているため、写真や映像で見るとは異なる雑多な感じと忙しく生活を送る人々の様子を垣間見ることができた。民主化を求める抗議活動の影響で、駅にたくさんの貼り紙がされていたり、大学から数駅隣の地区では休日にデモ隊と警察の衝突があったりもし、一部物々しい雰囲気があったが、普段の生活は極めて平穏なものだった。

大学自体は、イギリス植民地時代から続く伝統と格式、エリート精神とリベラル思想を大事

にしながら、各々の出自を問わず自由に開かれている風土だった。学生の約半数は留学生が占めているため、構内では様々な言語が聞こえ、イベントやサークル活動などを通して、異文化に触れる機会も多様にあった。

②ネット環境、施設、周辺環境などハード面について教えてください。

大学の中は無料 Wi-Fi サービスがあり、日本から持参したパソコンやスマートフォンも不自由なく使えた。大学には Learning Commons という自習スペースがほぼ 24 時間開いており、パソコンやプリンターも設置されているため、課題に取り組むのに最適な空間だった。大学は山の急斜面に立地しており、登下校時には坂やエレベーターを昇降しなければならない。また狭い敷地のわりには縦横に長く建物が立っているため、移動が大変だった。学生として必要な施設や設備は一通り大学内で完結できるように整備されている。大学の周辺には、様々なお店があり、食事にも飽きることはない。大学には地下鉄も通っているので、遠出するにも交通の便が良い。

③留学先でどのようにして現地の学生と交流を深めましたか（具体的にお願いします）？

大学で開催される講演会やイベント（映画鑑賞会、文化紹介フェスなど）、日本好きの学生が集まるサークルなどに参加し、同じ興味・関心を持っている学生と仲良くなり、休日に出かけたりして交流を深めた。

④余暇の過ごし方（授業後や長期休暇など）について教えてください。

大学がある平日は、友達と食事をしたり、大学で開催される講演会やイベントに参加したり、ジムでトレーニングをしたりしていた。休日は、友達と一緒にいし一人で街を散策したり、日本人のコミュニティが発達していたので、その集まりに参加したりしていた。

E. 健康管理、保険、予防接種など

①健康管理あるいは衛生面について注意していたことはありますか？

水道水は飲んでも大丈夫なようだが、心配だったので煮沸して使うか、市販の飲料水を買っていた。

②留学中に病院へ通った経験の有無、医療費などについて教えてください。

強い腹痛があったため、大学の医務室を一度利用した。ウェブサイトから事前に予約して診察をしてもらった。診察料は不要で、治療薬も無料で処方してもらった。

③加入した保険の種類について教えてください。

☐ 留学先の大学が用意した「キャンパス保険」への強制加入

*キャンパス保険でカバーされない部分は、個人保険に加入も含む

☒ 個人の保険のみ

☐ キャンパス保険と個人の保険の二重加入

④留学するにあたって、予防接種は必要でしたか？

☐ はい（種類：）

☒ いいえ

F. 住居、食事、マナーなどについて

①留学中の滞在先について教えてください。

形態	☒ 寮 ☐ 下宿 ☒ アパート ☐ ホームステイ ☐ その他（ ）
何人部屋	（ 3 ）人

- ②生活（住居、食生活、服装など）や習慣の違い（マナー、対人関係）、安全面などについて、困ったこと、気をつけていたことがあれば教えてください。

大学が提供している寮が慢性的に不足しており、到着から約 1 ヶ月は大学の住宅検索サイトを通じて自分で契約したアパートで生活しなければならなかった。アパートでは学生 6 人で 4LDK をシェアし、私自身は個室も 2 人でシェアしていた。寮に引っ越してからは、部屋の広さには少し余裕ができたが、3 人の生活リズムが全くバラバラだったため、睡眠を邪魔されることも多々あった。そのような際はできるだけ他の 2 人に時間を合わせるようにしたり、自分の予定を伝えて配慮してもらうようにした。

平穏な日常生活の中にも、民主化を求める抗議活動の影響は随所に見られ、真っ黒の服や真っ白の服は、活動に対する立場の表明と受け取られる可能性があるため、着ないようにしていた。また、ローカル情報を逐次確認し、出かける先が安全な状況にあるかは常に把握するようにしていた。

- ③日本から持参するとよいもの、または持参しなくてもよかったと思うものは何でしょうか。

ほとんどのものが現地調達できるので、取り立てて日本から持参する必要があるものはない。しかし、暑い時期はもちろん、寒くなり始める時期も、冷房がよく効いているので、温度調整のできる長袖の服は必須だと思う。

- ④参考となる留学先国の情報（出版物、web サイト）を教えてください。

- ・ 倉田徹・張彧啓『香港—中国と向き合う自由都市』岩波書店、2015 年
- ・ 沢木耕太郎『深夜特急 1—香港・マカオ—』新潮社、1994 年
- ・ 地球の歩き方編集室編『D09 地球の歩き方 香港 マカオ 深セン 2019~2020』ダイヤモンド・ビッグ社、2019 年
- ・ 「Discover Hong Kong - 香港政府観光局公式ガイドブック」(<http://www.discoverhongkong.com/jp/index.jsp>) (2020 年 5 月 1 日最終閲覧)
- ・ 「香港旅行ガイド「香港ナビ」～世界 15 エリアから現地情報をお届け」(<https://www.hongkongnavi.com>) (2020 年 5 月 1 日最終閲覧)

G. 留学費用について

- ①留学費用や支出の管理などに関してアドバイスがあれば教えてください。

香港の物価は言われているほど高くなく、日本と同じような金銭感覚でいけば良い。日本と香港の往復は、格安航空会社を利用すれば費用が抑えられる。自分で見つけたアパートに住まなければならない場合は、住居費が大きな負担になる。現地に着いた後にも、留学先大学の学生の住宅を管轄する部署としっかりと連絡を取り合い、可能な限り早く、大学の寮に引っ越すことをおすすめする。

入院を必要とする病気になってしまったことが影響し、成績要件をクリアできず、奨学金を受給できないまま渡航することになり、非常に苦しい思いをした。健康管理はもちろん、その他の理由でも学業を疎かにせず、奨学金を受給できるように努力してほしい。

- ②奨学金はもらっていましたか？

☐ はい （奨学金名： 支給額： 円）

☒ いいえ

③差し支えなければおおよその留学費用を教えてください。*内容の費目は自由に変えてください。

内容	金額	備考
渡航費	約 7 万円	往復ともに LCC を利用
保険代	約 11 万円	学研災付帯海外留学保険
住居費	約 26 万円	寮費は半期で約 7.3 万円、それ以外はアパートにかかった費用(賃料 1 ヶ月分+保証金)
食費	約 6 万円	大学の食堂や大衆食堂は安い
交通費	約 1 万円	学生割引で地下鉄が安く乗れる
通信費	約 5 万円	現地で電話を契約した
その他	約 1 万円	

F. 今後の進路や目標、就職活動について

①卒業後の進路（進学、就職、その他）について教えてください。

☐進学

☒就職

☐その他（ ）

②今後の進路や目標があれば教えてください。また留学の前後で、進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。

中学生の頃から日本をより良くするために政治に関わる仕事をしたいと思っており、今後もその夢に向かって進んでいく予定である。卒業後すぐは民間企業に就職し、民間の立場から新しい社会をつくることに貢献したいと考えている。その後は、政治の中枢に入り、日本を変革することに携わりたいと考えている。

③留学中に就職活動を行った方は、具体的なエントリー、一時帰国の時期、感想などを教えてください。海外留学生用の就職活動を受けた場合はそれに関する情報もお願いします。

10 月に中国の上海で開催された就活イベント（上海キャリアフォーラム）と、11 月にアメリカのボストンで開催された就活イベント（ボストンキャリアフォーラム）に参加した。どちらも交換留学生を含めた日本人の海外大学生向けの就活イベントになっている。それぞれ 1~2 ヶ月前にイベントを主催する団体のページから選考を受けたい企業にエントリーシートや自己紹介動画等を提出し、事前にウェブで面接やテストを受け、イベント当日にさらに面接やディナー招待を受けるというのが一連の流れになっている。いくつかの企業は、イベント期間中に内定や内々定を出してくれ、そこで選考は終了した。他の企業は、留学が終了し、帰国した後に特別選考に案内することを約束された。留学先での学習との両立はハードだったが、4 年間で大学を卒業したいと思っていたので、スピーディーに就活を終えられたことのメリットは大きかった。

F. 留学を終えて感じること

①留学を終えて今の率直な気持ちや感想、印象に残っていることなど教えてください。

民主化を求める抗議活動の影響で、予定よりもかなり短い留学になってしまったが、政治に強い関心を持って学んできた身として、歴史的な転換期に少なからず立ち会い、共に学ぶ学生と意見を交わすことができたのは、まさに一生に一度の経験だと思う。ただ、香港の面白い文化を隅々まで味わうことができなかったのが、観光でも良いので、また足を運びたい。海外の大学で学ぶということも、正直不完全燃焼な部分がある。大学生のうちに、もう一度長期間留学することはできないが、社会人になった後にも、より専門性の高いことを学ぶ機会をぜひ得たい。

②留学したことで、何がどのように変わったと思いますか？

変わったと思うことは2点ある。1つ目は、ビジネスに社会を変える力があることを認識したことだ。香港はアジアの国際金融の中心であるため、日系企業や日本人の起業家がたくさんおり、それらの方と関わる機会が幾度かあった。直接お話を聞いたり、学生の目線からアイデアを出させていただいたりする中で、ビジネスがただ利益を生み出すだけでなく、社会や人生を豊かにする大きな目的を持ち、実際にそれを実現する力を持っていることを垣間見た。政治には社会を変える力があると思い、政治に興味を持って勉強してきたが、留学を通してビジネスに対する考え方が大きく変わった。

2つ目は、個人や現場を知ることが大切だと認識したことだ。民主化を求める抗議活動をリアルタイムで経験し、学術的な観点や国際関係のようなマクロ的視点では語れない、香港の人々が持っているアイデンティティや、個人の境遇・想いを知った。より多くの人にとって良いと思える政策や、国家にとって都合の良い政策が行われがちだが、その影で苦しい思いをする人を見逃してはいけないことを痛感した。

③現在、留学を考えている学生へのメッセージをお願いします。

留学することをすでに心に決めている方は、どのような動機や目的であれ、それらを突き詰めて考えください。半年も一年も、過ぎてしまえばあっという間です。やっておいた方が良いなと思った準備には全て取り組み、やってみたいと思っていた現地での学習や活動にも、全てやってきてください。

留学しようかまだ悩んでいる方は、悩んでいる暇があったら行きましょう。留学して何を得られるのだろうか、留学して進路に悪影響が出るのではないかなど、悩みはいくらでも出てきます。しかし、「大学生で交換留学生としてトップレベルの海外大学で学ぶ」という恵まれた経験ができるのは今だけ、そしてあなただけです。

◆自由記述欄◆



1. 同じ時期に香港大学に来了留学生たち



2. 大学から見た景色



3. 民主化を求める抗議活動で占拠された大学構内